

「救急の日」・「救急医療週間」及び「救急車の正しい利用方法」について

119

「救急の日」・「救急医療週間」

「救急の日」及び「救急医療週間」は、救急医療及び救急業務に対する国民の正しい理解と認識を深め、救急医療関係者の意識の高揚を図ることを目的に昭和57年に定められ、毎年9月9日を「救急の日」とし、この日を含む1週間（日曜日から土曜日まで）を「救急医療週間」としています。今年は9月7日（日）から9月13日（土）までが「救急医療週間」です。



「救急車の正しい利用方法」

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えていきます。また、救急車で搬送された人の約半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。症状に緊急性がなくても、「交通手段がない」「この病院に行けばよいかわからない」「便利だから」「困っているから」と救急車を呼ぶ人がいます。また、「平日休めない」「日中は用事がある」「明日は仕事」などの理由で、救急外来を夜間や休日に受診する人もいます。

重症な人の救急対応にも備えるため、救急車が本来に必要かどうかよく考えて、タクシー代わりに救急車を利用したりすることのないようお願いいたします。



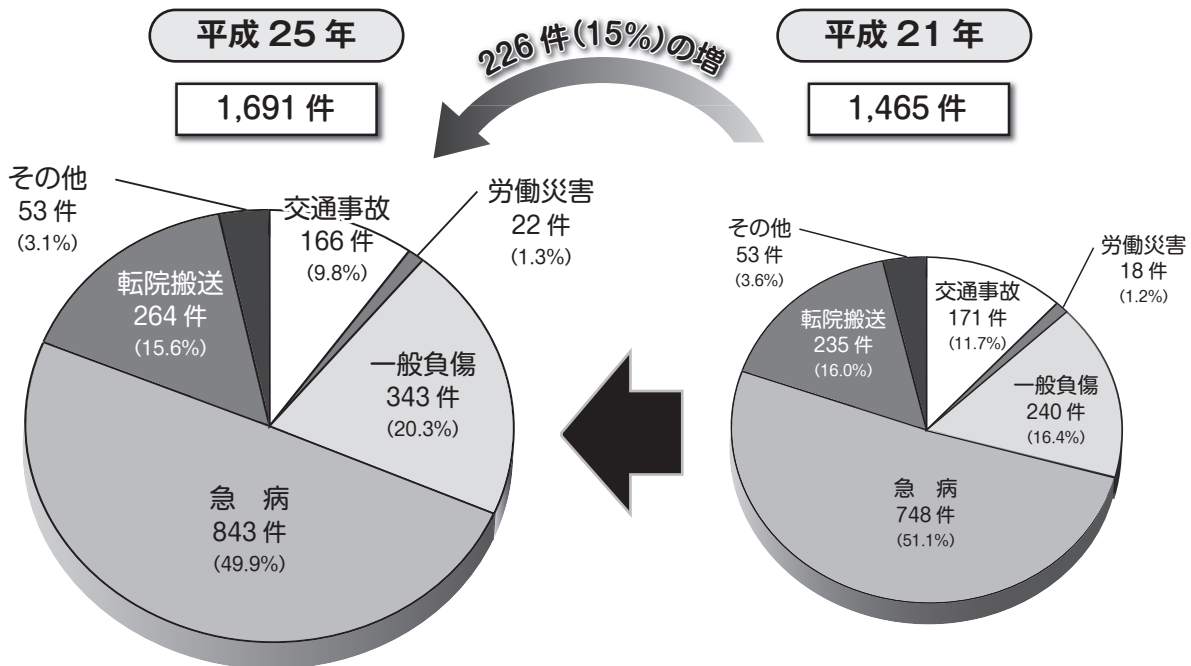
「応急手当」

救急車が到着するまでの時間は、全国平均で7分です。しかし郡上市は、広大な管轄面積を有しており、場所によっては全国平均を大幅に超える場合があります。救える命を救うためには、より早い応急手当が重要です。いざというときに、大切な人を救うためにも、正しい応急手当を身につけておきましょう。

応急手当をしている人以外にも人手が有る場合は、救急車が来るところまで案内に出てください。消防署では、市民のみなさんを対象に応急手当講習を実施しています。講習に関するお問い合わせは、左記の消防署・所へ連絡してください。

- ▼ 中消防署（八幡） 67・1236
- ▼ 北消防署（白鳥） 82・5119
- ▼ 中消防署南出張所（美並） 79・3999
- ▼ 中消防署東詰所（和良） 77・5119

郡上市における救急出動件数の比較



ためらわず救急車を呼んでほしい症状

次のような症状や事故は、重大な病気であったり、重症となる場合があります。

大人の場合

- 頭**
 - 突然の激しい頭痛。
 - 突然の高熱。
 - 支えなしで立てなごうへらいに急にこらうつく。
- 顔**
 - 顔半分が動きにくい、あるいはしびれる。
 - ニッコリ笑うと口や顔の片方がゆがむ。
 - ろれつがまわりくく、うまく話せない。
 - 視野がかける。
 - ものが突然二重に見える。
 - 顔色が明らかに悪い。
- 胸や背中**
 - 突然の激痛。
 - 急な息切れ、呼吸困難。
 - 胸の中央が締め付けられるような痛みが2〜3分続く。
 - 痛む場所が移動する。
- 腹**
 - 突然の激しい腹痛。
 - 持続する激しい腹痛。
 - 吐血や下血がある。
- 意識の障害**
 - 意識がない(返事がない)または、おかしい(もうろうとしている)。
 - ぐったりしている。
- けいれん**
 - けいれんが止まらない。
 - けいれんが止まっても、意識がもどらない。
- けがやけど**
 - 大量の出血を伴う外傷。
 - 広範囲のやけど。
- 吐き気**
 - 冷や汗を伴う強い吐き気。
- 飲み込み**
 - 食べ物をのどにつまらせて呼吸が苦しい。
 - 変なものを飲み込んで意識がない。
- 事故**
 - 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)。
 - 水におぼれている。
 - 高所から転落。
- その他**
 - いつもと様子が違う場合。
- 手足**
 - 突然のしびれ。
 - 突然、片方の腕や足に力が入らなくなる。

小児(15歳未満)の場合

- 頭**
 - 頭を痛がつてけいれんがある。
 - 頭を強くぶつけて出血が止まらない、意識がない、けいれんがある。
- 顔**
 - くちびるの色が紫色で、呼吸が弱い。
- 胸**
 - 激しい咳やゼーゼーして呼吸が苦しく、顔色が悪い。
- おなか**
 - 激しい下痢や嘔吐で水分が取れず、食欲がなく意識がはっきりしない。
 - 激しいおなかの痛み。
 - 便に血が混じった。
- 手足**
 - 手足が硬直している。
- 意識の障害**
 - 意識がない(返事がない)または、おかしい(もうろうとしている)。
- けいれん**
 - けいれんが止まらない。
 - けいれんが止まっても、意識がもどらない。
- やけど**
 - 痛みのひどいやけど。
 - 広範囲のやけど。

虫に刺されて、全身にじんましんが出て顔色が悪くなった。

変なものを飲み込んで意識がない。

生まれて3カ月未満の乳児

- 事故**
 - 交通事故にあった(強い衝撃を受けた)。
 - 水におぼれている。
 - 高所から転落。
- その他**
 - 乳児の様子がおかしい。
 - いつもと様子が違う場合。

救急車の呼び方

119番通報すると、指令員が救急車の出動に必要なことを、順番に伺います。

- ① 救急であることを伝える
「救急です」と伝えてください。
- ② 救急車に来てほしい住所を伝える
住所は、必ず市町村名から伝えてください。住所が分からない時は、近くの大きな建物、交差点など目印になるものを伝えてください。
- ③ 症状を伝える
誰が、どのようにして、どうなつたか簡潔に伝えてください。
- ④ 性別と年齢を伝える
性別と年齢を伝えてください。年齢が分からない時は「60代」のように、おおよそで伝えてください。
- ⑤ 自分の名前と連絡先を伝える
通報した人の名前と119番通報後も連絡可能な電話番号を伝えてください。こちらから問い合わせることがあります。
- ⑥ その他、詳しい状況、持病、かかりつけ病院等について尋ねることがありますので、分かる範囲で伝えてください。



問 郡上市消防本部(指令課)
67・1127